

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりが豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となるために
- 1 自ら考え行動し、課題を解決する力を備え、多様な人と協働できる生徒を育てる。
- 2 地域コミュニティを支える良識ある市民を育てる。

2 中期的目標

- 1 総合学科の特性を生かした教育課程を展開し、確かな学力の定着と学びの深化を図る
(1) ミドルリーダーを中心として組織的に授業改善に取り組み、教員の授業力向上に取り組む。
(2) 各教員が、主体的に授業を研究し、授業形態の工夫や今後進化し続ける ICT 機器の積極的な活用等により授業改善を図る。
(3) 各教科等の内容を相互の関係でとらえ3年間で生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるよう、総合学科としてのカリキュラムを実施する。
※学校教育自己診断（生徒向け）の「1人1台端末を有効に活用している」の「よくあてはまる」をR10年度までに70%以上にする。
(R5:52/R6:63/R7:57)
「授業中の発言や、グループ活動での積極的な意見」の「よくあてはまる」をR10年度までに35%以上にする。(R7:28)
「自分で調べたり考えたりすることがある」の「よくあてはまる」をR10年度までに35%以上にする。(R7:29)
「教室はきれいで授業を受ける態勢ができている」の否定的評価をR10年度に10%以下とする。(R5:13/R6:15/R7:24)
「この学校には自分にあったフィールドや科目がある」の肯定的評価90%以上を維持する。(R5:89/R6:93/R7:95)
「授業で発表する機会がある」の「よくあてはまる」をR10年度までに60%以上にする。(R5:40/R6:49/R7:48)
(以下「学校教育自己診断（生徒向け）」は「生徒診断」、「学校教育自己診断（保護者向け）」を「保護者診断」と表記する。)
- 2 総合学科の学びの柱となるキャリア教育を充実させ、生徒が主体的に学ぼうとする意欲を育てる。
(1) 進路部・教務部・学年を中心に教科とも連携を図り、3年間を通じたキャリア教育を充実させる。
(2) 放課後の講習など進路指導部を中心に組織的に実施し、生徒の進路実現を図る。
(3) 生徒の進路や興味・関心に応じて、適切な資格所得を推進する。
※生徒診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の「よくあてはまる」をR10年度までに70%以上にする。(R5:60/R6:61/R7:53)
「フィールドや選択科目のガイダンス・指導はわかりやすい」の「よくあてはまる」をR10年度までに55%以上にする。(R5:44/R6:46/R7:43)
※4年制大学進学希望者の4年制大学への進学率90%以上を維持する。(R5:98/R6:89/R7:96)
就職希望者の就職率100%を維持する。(R5:100/R6:100/R7:100)
- 3 生徒の発達の支援と安全で安心な魅力ある学校づくり
(1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努め、生徒が自分で判断して自らの行動を律することができることをめざす。
(2) 生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。
(3) 生徒が多様性を認め、お互いを尊重することができるよう、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。
(4) 生徒会活動・委員会活動をさらに充実させ、生徒の自主的活動を推進する。
※生徒診断「学校生活について、先生の指導は納得できる」の「よくあてはまる」を、R10年度までに40%以上にする。(R5:28/R6:29/R7:30)
「情報機器やSNSを使用する際にルールを守っている」の肯定的評価95%以上を維持する。(R5:98/R6:99/R7:99)
「何かあれば相談できる先生がいる」の肯定的評価をR10年度までに90%以上にする。(R5:71/R6:77/R7:82)
- 4 自走する教職員集団の育成と学校の組織づくり
(1) 新たな教育課題に即応できるよう、「明日のなみはやを考える会」を中心に学校組織の活性化を図る。
(2) 大阪府立学校の教職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。
(3) 保護者・地域・異なる校種・教育関係機関等との連携をあらゆる場面で充実させる。
※保護者診断「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」の肯定的評価をR10年度までに85%以上にする。(R5:73/R6:72/R7:77)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

府立門真なみはや高等学校

中期的 目標	今年度の重点 目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R8年度値〕	
1 総合学科の特性を生かした教育課程を展開し、確かな学力の定着と学びの深化を図る	（１）ミドルリーダーを中心とした組織的な授業改善、教員の授業力向上に取り組む。 （２）各教員が、主体的に授業を研究し、授業形態の工夫や今後進化し続ける ICT 機器の積極的な活用等により授業改善を図る。 （３）生徒たちが必要な資質・能力を身につけることができるよう、総合学科としてのカリキュラムを実施する。	ア 教員相互に授業見学を行い、授業力を高める。また研修の機会を有効に活用する。 イ 授業内外での１人１台端末等の活用を推進する。 ア 生徒が自主的・主体的に学ぶことができるような学習環境を整える。 ア カリキュラム・マネジメントをすすめ、教科を越えてカリキュラムの評価・点検を推し進める。 イ 話し合い、調べ学習、発表、実験、実習、地域貢献等を通して、考える力・まとめる力・発表する力等を育成する。	ア ミドルリーダーを中心とした公開授業週間や研究授業を年間３回以上実施する。〔２回〕 イ 生徒診断「学校は１人１台端末を有効に活用している」の「よくあてはまる」63%をめざす。〔57%〕 ア ・生徒診断「授業中の発言や、グループ活動での積極的な意見」の「よくあてはまる」30%をめざす。〔28%〕 ・生徒診断「授業で学んだ内容について自分で調べたり考えたりすることがある」の「よくあてはまる」31%をめざす。〔29%〕 ・生徒診断「教室はきれいで授業を受ける態勢ができている」の否定的評価を 19%以下とする。〔24%〕 ア 生徒診断「この学校には自分にあったフィールドや科目がある」の肯定的評価 90%以上を維持する。〔95%〕 イ 生徒診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の「よくあてはまる」53%をめざす。〔48%〕	
2 総合学科の学びの柱となるキャリア教育を充実させ、生徒が主体的に学ぼうとする意欲を育てる。	（１）３年間を通じたキャリア教育を充実させる。 （２）講習など進路指導部を中心に組織的に実施、生徒の進路実現を図る。 （３）生徒の進路や興味・関心に応じて、適切な資格所得を推進する。	ア 「産業社会と人間」から始まる３年間のキャリアプランを作成する。 イ 生徒が科目選択を通じて自己実現を図るガイダンス機能を充実させる。 ア 多様な学びの中で形成した個々の力を最大限に発揮できるよう、生徒が最後まで努力することを支援し、希望進路の実現を図る。 ア 資格取得の意義を理解できるように生徒に積極的な働きかけを行う。	ア 生徒診断「将来の進路や生き方を考える機会がある」の「よくあてはまる」60%をめざす。〔53%〕 イ 生徒診断「ガイダンスはわかりやすい」の「よくあてはまる」47%をめざす。〔43%〕 ア ３学年当初の四年制大学進学希望者の四年制大学への進学率 90%以上を維持する。〔95%〕 就職内定率 100%を維持する〔100%〕 ア ・漢字検定・英語検定受験者総数を前年度程度維持する。〔漢字検定 37・英語検定 108〕 ・選択したフィールドに関する資格試験の受験率（パソコン検定など 80%以上維持）〔100%〕	

府立門真なみはや高等学校

3 生徒の発達の支援と安全で安心な魅力ある学校づくり	（１）基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努め、生徒の自律をめざす。 （２）生徒が安心して学校生活を送ることができるように、個々の生徒への支援体制を強化する。 （３）生徒が多様性を認め、お互いを尊重するため、人権尊重の意識や道徳的な態度を育む取組みを充実させる。 （４）生徒会活動・委員会活動をさらに充実させ、生徒の自主的活動を推進する。	ア 生徒の思いを理解しつつ指導し、生徒がその目的を理解し納得感を得られるようにする。 イ 特に SNS 等の利用について、生徒の情報リテラシーを育成し高めていく。 ア 軽微なことでも生徒についての情報を共有する情報交換会を開催し、生徒支援・相談体制の充実を図る。 イ SC、SSW などの外部人材を活用し校内組織を活性化させる。 ア 生徒の短期語学研修の充実。 イ 外国の学校との相互交流の実施。 ウ 日本語指導が必要な生徒と一般選抜合格生徒も含めた生徒間交流を促進する。 ア CM 会議とともにリーダートレーニングを実施し、生徒の自主的な態度を育成する。 イ 生徒会活動を活性化させ、生徒会企画の広報活動を推進する。	ア 生徒診断「学校生活について、先生の指導は納得できる」の「よくあてはまる」を 34%以上にする。〔30%〕 イ 生徒診断「情報機器や SNS を使用する際にルールを守っている」の肯定的評価 95%以上を維持する。〔99%〕 ア 生徒支援委員会を定期的を実施することで、生徒診断「何かあれば相談できる先生がいる」の肯定的評価を 85%以上にする。〔82%〕 イ 生徒支援委員会を活用し、教員あるいは保護者の SC、SSW への相談を 2 件以上実施する。〔2 回〕 ア 短期語学研修を実施する。〔オーストラリア〕 イ 1 校以上の交流を受け入れる。または、受け入れができない場合はオンラインによる交流を複数回実施する。〔2 回〕 ウ 外国にルーツのある生徒達等による文化発表会等での自国文化の紹介を年 10 回以上実施する。〔12 回〕 ア ・部活動加入率 70%以上をめざす。〔59%〕 ・クラブ加入者のアンケート等を実施し、課題を明確にし、クラブ活動を活性化させる。 イ 生徒会のインスタグラム企画を毎学期 1 回更新する。	
4 自走する教職員集団の育成と学校の組織づくり	（１）「明日のなみはやを考える会」を中心に学校組織の活性化を図る。 （２）大阪府立学校の教職員に関する業務管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。 （３）保護者・地域・教育関係機関との連携をあらゆる場面で充実させる。	ア 学年・分掌等の組織単位で、学校経営計画を意識し、学校の課題解決のための取組を推進できる教職員集団をめざす。 ア 業務の効率化や会議等の精選、部活動の適正な実施等を実施し、学校運営の見直しを図る。 イ ゆとり週間・月間等の徹底に取組み年休所得を推進する。 ア 保護者、地域、中学校等へ本校の取り組みを積極的に発信する。 イ 保護者連携の推進のため、メールの一斉配信など確実な連絡を行う。	ア 「明日のなみはやを考える会」を中心に、どの分掌や委員会にも属さない又は横断するような課題に取り組み、年間を通して 10 回以上の会議を実施する。〔6 回〕 ア 年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする。 ア 生徒会のインスタグラム企画を毎学期 1 回更新する。 イ 保護者診断「学校は、家庭への連絡や意思疎通を十分行っている」の肯定的評価を 80%にする。〔77%〕	